

## 平成18年度香川大学卒業式 学長告辞

学位記を授与された1,387名の諸君、卒業おめでとう。君たちの在学中における努力と熱意に心から敬意を表します。本日、ここに平成18年度卒業式が行われることは我われ教職員にとっても大きな喜びであり、心からお祝申し上げます。

卒業式の席に座りながら君たちはどのようなことを考えているでしょうか、入学した時のことを思い出している人はいるでしょうか、入学してからの4年間又は6年間、人によっては誤差の範囲でそれらより多めの人もいるでしょうが、いずれにしても過ぎ去ってしまえば、あっという間の出来事だったと思います。しかし、君たちは自分自身で認識している以上に人間として成長したはずです。生涯にわたって続くであろう友との出会いや忘れがたいすばらしい思い出、一生残るかも知れない苦い思い出、これらは君たちが社会の中で生きていく力を養う肥やし、すなわち肥料になっています。

しかし、香川大学の在学中に君たちが得たもっとも大きな資産は、分野はそれぞれ違いますが、君たちが専攻する学問にじかに接し、専門的知識はもちろんですが、卒業論文や課題研究などを通して研究することの楽しさ、少しきざっぽい言い方になるかも知れませんが、学問を通しての感動を実感したことではないでしょうか。21世紀は知識基盤社会、知の時代と言われる中で知の重要性を実感したことは君たちの将来にとって大きな資産になると思います。

さて、君たちの多くは明日から社会人です。大学院へ進む人もいますが、これからお話しする内容は君たち全員に共通の課題です。君たちは、社会のなかで自立して生きていかなければなりません。「自立」とは、経済的な自立とか精神的な面で家族や友だちに頼らないことだけを言っているではありません。

それは、人それぞれが生涯かけて行う事業である「個の確立」であると私は思います。自分の個性の確立は、個人としての人間にとって最大の事業かも知れません。では、「個の確立」のためには何をすればよいのでしょうか。私は、2つのことがあるのではないかと考えています。第1番目は、自分はこういう特長を持った人間であるという自分自身の認識であります。それは、言い換えれば独自性の主張とすることができます。第2番目は、独自性に対する他者の容認であります。すなわち、自分自身の特長を周りの人たちが認めてくれることです。人間は一人で存在するのではなく、社会のなかでの存在である限り、他人への尊重も

大切であり、この2つが「個の確立」のために必要であると思っています。

香川大学において君たちは「個の確立」に向けての基本的素養を身につけることができたはずですが、君たちは明日から個の確立に向けた活動に取り組まなければなりません。第1番目に必要なものとしてあげた「特長を持った人間」に関連して、私は研究室の学生にしばしば次のように言っていました。君達が社会で自立するためには、また、自分の存在を認めてもらうためには「得意技を持って」と言っていました。君たちは自分自身の特長を大きく成長させ、また、その数を増やすために明日からエネルギーと時間を使ってください。5年でできる人がいるかも知れませんが、10年かかるかも知れません。いや、もっとかかるかも知れません。

香川大学で学んだ素養を活用し、「個の確立」に向かってチャレンジし、継続的に努力されることを願っております。

私達は、君たちが卒業した後も君たちに対して支援できることはできる限り支援し、卒業生との交流を深めたいと考えています。現在、香川大学では2週間に1回の頻度で、「香川大学メールマガジン」を発行しています。その中には香川大学の近況や全学・学部等の行事予定も掲載されています。もちろん、私も「オリーブの葉かげで」のコーナーでしばしば登場します。ぜひ、定期購読者に登録してください。登録料は無料です。

国立大学が法人化され4年目を迎えようとしています。変革の大きな波が国立大学に打ち寄せていますが、香川大学は地域社会に対してはもちろん日本全体、世界からもその存在は大いに認められており、香川大学の存在はゆるぎないものであります。卒業生にとって香川大学が誇れるに足る大学であるために、我われ教職員は最大限の努力を払わなければならないと考えています。香川大学を巣立つ君たちが、新しい環境のなかで「個の確立」に向かって努力を継続し、大きな花を咲かされることを期待し、告辞といたします。

平成19年3月23日

香川大学長 一井 眞比古